

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 12 月 15 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3890600343
事業所名 (ユニット名)	社会福祉法人 亀天会グループホーム 竹梅小路 竹ユニット
記入者(管理者) 氏名	石本 千裕
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 19 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 ～あたたかく、さりげなく～「出会い」と「笑顔」を大切にします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ○苑で活動している内容を外部の人に知ってもらう。 一広報誌の作成を行い、家族様に配布したり、玄関先に貼って知ってもらうようにした。広報誌の中に防災訓練の写真も入れた。また、クリスマス会や敬老会では、家族様にプレゼントの依頼を行い、行事の内容が伝わるように心がけた。外部評価の結果も送付を行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 市内中心部にある事業所は、近隣に西条市役所があるほか、買い物や飲食などの利便性も良く、生活を送りやすい場所に立地している。約5年前の事業所の開設当初から、介護ソフトが導入され、パソコンで職員が入力するとともに、職員間で情報共有が行いやすくなっている。また、広い共用空間は明るく、清掃や消毒、換気、温度調整などが行き届き、快適な空間となっている。コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられているものの、利用者が屋外に出て、歩行や外気浴をしたり、ドライブをして紅葉を見に行ったり、ガラス越しの面会に対応するなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう取り組んでいる。さらに、コロナ禍でも感染対策を図りながら、集合形式の運営推進会議を開催することができ、一部の家族に参加協力してもらい、リビングで利用者と合同のリクレーションも行われ、参加した家族に喜ばれている。4名の技能実習生が勤務しており、法人として働きやすいように、専用の職員寮も整備されている。加えて、20歳代から70歳代まで幅広い年齢層の職員が勤務しており、話しやすい良好な関係が築かれているほか、働き方改革で、休憩スペースを利用したきっちりとした休憩時間の確保、希望休や有給休暇も取得できる働きやすい環境が整えられ、直近の1年間に離職した職員はおらず、利用者の穏やかで楽しみのある生活に繋がっている。前回の外部評価の目標達成計画にも職員全員で取り組み、新たに竹梅だよりを発行したり、運営推進会議の会議録を家族に送付したりするなど、家族に新たな利用者の様子や出来事を伝える機会を設けることもできている。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	事前の聞き取りにより、カンファにて職員間で把握している	○	/	○	入居前に、管理者とユニットリーダー等が自宅を訪問して、利用者や家族から、思いや意向などの聞き取りをしている。また、把握することが困難な利用者には、家族から情報を聞くとともに、日々の生活の中で、職員は表情やしぐさ、行動などから、思いをくみ取るよう努めている。把握した内容は、面接記録表やアセスメントシートなどに記載し、職員間で情報共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	ご家族様に相談し、本人にとって一番良い方向になるよう職員間で検討している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	主にキーパーソンとなるご家族様に、聞き取りを行っている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	面接記録表やカンファを置き、職員間で共有している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	本人様の思いを職員間で話し合い、意見を出し合っている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時もしくは都度ご家族様から詳しく聞き取りを行っている	/	/	○	入居前に、管理者等が自宅等を訪問し、介護ソフトに導入されているアセスメントシートを活用して、利用者や家族から、以前の仕事や趣味、昔のこと、生活歴などの聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員から情報を聞くほか、病院からサマリーなどの提供を受けることもある。さらに、日々の生活の中で、職員は利用者から新たな情報を聞くとともに、電話等で家族から情報を聞くこともある。加えて、把握した情報はパソコンを活用して、アセスメントシート等に入力するとともに、6か月に1回情報の更新を行い、職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	利用者様一人一人の面接記録表やカンファに記録を残し、職員間で共有している	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	入居時に、これまでの生活環境について詳しく聞き取りを行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	本人様の思いを職員間で話し合い、意見を出し合っている	/	/	○	事前に、把握したアセスメント情報等をもとに、利用者や家族の意見、医師の指示などを踏まえて、ユニット会議を活用して、職員間で気づきやアイデアを出し合いながら、利用者本人の視点で、より良いサービス提供を検討している。また、会議では、「〇〇ではどうか」などの職員からアイデアや提案も出され、サービスの試行を行い、良ければ継続した支援に繋がっている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	アセスメントを行い、本人様がより良く暮らすための検討をしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	入居前のご本人生活を聞き取り、若い頃の趣味は何か等を事前情報共有をしている。	/	/	/	事前に、利用者や家族、関係者から意見を聞くほか、事前に把握した情報をもとに、月1回実施するユニット会議を活用して、カンファレンスを実施して職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。コロナ禍において、カンファレンスには利用者や家族等が会議に参加することはないものの、利用者や家族の思いや意向を反映した内容となるよう努めている。また、法人として、ケアプランの立案などの研修も行われている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	入居時のカンファレンスや変化があった時、は、ご家族に意向の確認を行い、職員間で検討を行っている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	要介護④、⑤の方など、法人内の特養へ移行される方が多い。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	ご家族には、病院受診の支援や必要な物の購入など、色々な面で協力をお願いしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画の内容の共有を行い、意見を出し合っている。	/	/	/	○ 介護計画の内容は、カンファレンスの中で共有するよう努めるとともに、事務室に個別のファイル置き、職員はいつでも確認することができるようになっている。約5年前の開設時から介護ソフトが導入され、職員はパソコンを活用して、計画に沿ったケース記録を入力することができ、職員間で内容確認や共有を行いやすくなっている。また、利用者の夜間の状況や発した言葉などを、詳細に記録に残すことができている。中には、外国からの技能実習生やパソコン入力に不慣れな職員がいるものの、話しやすい良好な関係が築かれ、職員間でフォローし合うこともできている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日のケース記録に入力している。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	状態の変化がある時や半年に1回は見直しを行っている。入居が初めての時は、3か月で見直しを行っている。	/	/	/	◎ 入居後の初回の介護計画は、3か月で見直しをするほか、それ以降は、6か月に1回見直しをしている。新たな要望や変化が見られない場合にも、計画作成担当者が毎月モニタリングを行い、サービスの実施の有無や状況を見ながら、利用者の現状を確認するとともに、総括などの評価も行われている。また、利用者や家族の意向の変更や、入退院などの状態に変化が生じた場合には、事前に家族や医師などの関係者から意見を聞くとともに、職員間で話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリングを実施している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態に変化があった時やご本人、ご家族の意向に変化があった時は、計画書の見直しを行っている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	日々の申し送りの時や課題が生じた時は話し合いを行い、ケアの見直しを行っている。	/	/	/	○ 毎月、第4月曜日の15時00分から1時間程度、全体で職員会議を開催して、全体行事などの情報共有や勉強会を実施するとともに、前後にユニット会議を開催して、利用者の現状確認やカンファレンスなどを実施し、職員間で話し合いをしている。また、リーダー会議も開催されている。職員会議は全ての職員の参加を基本として、毎月の開催日時を固定して参加しやすくするとともに、時間外手当を支給するなどの対応も行い、ほとんどの職員が会議に参加することができる。さらに、参加できない職員には事前に意見を出してもらいほか、議事録を確認してもらい、情報共有に努めている。加えて、緊急案件のある場合には、管理者やユニットリーダー、看護師等で確認を行い、必要に応じて話し合いをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	お互いの情報や気づきは、活発に行われており、職員同士の関係性が良く、雰囲気も良い。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	会議は、職員が出席しやすい時間帯を選び、話を行っている。議事録の作成や申し送りノートを活用している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	定期的なユニット会議や申し送りノートの活用、記録を残し、口頭でも報告するようにしている	/	/	/	○ 日々、朝夕の申し送りを口頭で実施している。また、手書きの申し送り帳や申し送り事項なども記載され、出勤時等に職員はパソコンでのケース記録を合わせた確認を行い、確実な申し送りに繋げている。さらに、不明な点があれば、職員同士で確認を行うことができている。加えて、緊急連絡がある場合は、緊急連絡網を活用して、情報を伝達している。
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	「その日したいこと」聞き取り、1人1人の望みが叶えられるように努めているが、毎日出来るとは限らない。	/	/	/	○ 日々の体操や歩行、飲み物、着る服、レクリエーションなどの様々な場面で、職員は利用者「何をお願いします」などの声かけを行い、自己決定できるよう支援している。また、意思表示が難しい利用者には、職員が二者択一などの選択肢を絞るとともに、「どちらを着ますか」などの利用者に声をかけて、表情やしぐさを観察するなど、少しでも選択してもらい機会を設けている。さらに、誕生会でお祝いをしたり、屋外に出た際には話題がはずんだりするなど、利用者の活き活きとした表情を見られる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	レクリエーション内容を一緒に考えたり、衣類を選んでもらうなどの自己決定の機会を作っている	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	起床、就寝など、一人一人のペースに合わせている。排泄や食事の時間や方法なども、一人一人のペースに合わせている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	一人一人に合わせて声掛けや話題を変え、楽しい雰囲気をつくるようにしている	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や反応を注意深く観察し、本人の意向や考えを第一に考え支援している	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	会議等で勉強会を行い、利用者の尊厳やプライバシーの事について学びの場を設け、常に利用者のプライバシーを大切にしよう努めている	/	/	/	○ 利用者の尊厳やプライバシーを勉強会で学び、職員は意識した対応に努めている。また、入浴時や排泄時には、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した対応を心がけ、タオルで身体を隠すなどの対応もしている。さらに、居室に入室する際に、職員はノックや声かけをしてから入室するとともに、不在時にも、事前に声をかけてから入室することができている。中には、物取られ妄想などが見られる利用者もおり、入浴などの際には、居室に鍵をかけて、確認してから浴室へ行くなどの対応をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排泄時にはドアを閉める、入浴は一人ずつ行い、タオルで体を隠すなど、配慮した介助を行っている	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る際にはノックしたり声掛けを行ってから入るようにしている	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入職時、退職時に書面にて契約を交わしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	昔の話や歌など、職員の知らないことを教えてもらったり、洗濯物を干したりたんでもらうなどの作業を手伝ってもらっている	/	/	/	利用者から昔の情報を教えてもらったり、洗濯物たたみやお盆拭きなどを手伝ってもらったりした場合には、職員から「ありがとうございます」などの感謝の言葉を伝えている。また、車いすを他の利用者が押すのを手伝ったり、励ましの声をかけたりするなど、利用者同士が助け合う場面も見られる。さらに、職員は利用者同士の関係性を把握して、配席などを考慮するとともに、何度も同じことを言い、怒って声を出すなどのトラブルが発生しそうな場合には、早期に職員が間に入り、話を聞くなどの対応をしている。仲の良い利用者同士が近くに座り、話しをできるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者の得意なこと、苦手なことを理解し、お互いが補っていける関係性を築いてもらっている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	席の配置を考え、利用者同士がトラブルや孤立することがないよう努め、みんなで一緒にレクリエーションをする時間なども設けている	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルになりそうな時には未然に職員が仲介に入る、話題を変えるなどの配慮をしている	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	入所時の聞き取りにより、馴染みの場所等の把握をしている	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナにより外出は難しかったため、窓越しでの面会のみとなっている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナにより希望に沿うことは難しく、裏の駐車場でのレクや、時々近くに散歩に行っているが、回数は限られている。	x	x	△	コロナ禍において、外出できる機会は減少している。天気の良い日には、屋外に出て外気浴をしたり、敷地内を歩いたり、歌を歌うなど、少しでも屋外に出て、利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、病院受診は、家族に同行支援をお願いするとともに、自宅に立ち寄り、好きな物を食べて帰る利用者もいる。さらに、感染状況を見計らいながら、ドライブをして紅葉を見に出かけ、鯉に餌をやったり、屋外でおやつを食べたりすることができ、利用者に大変喜ばれている。1月には、初詣に行くことを予定している。加えて、外出する機会が減少している代わりに、毎月クリスマス会などの季節の行事を開催したり、利用者と一緒におやつ作りをしたりするなど、少しでも利用者が楽しめるよう支援している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	x	コロナ禍であり、職員のみでの近所の外出程度である。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	定期的に勉強会を行い、認知症の理解に努め、ベストなケアが出来るよう職員間で話し合っている	/	/	/	職員は勉強会で、認知症状などを学ぶとともに、行動の原因などを職員間で話し合いをしている。また、ラジオ体操や歩行訓練、足で輪を渡すゲーム、足踏み、計算を取り入れた体操、計算、ぬり絵などを取り入れて、利用者の心身機能の維持に努めている。さらに、入浴の際の着替えの準備や食事など、利用者ができることやできそうなことは自分でしてもらい、職員は見守りやできない部分のサポートをしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	毎身体操や口腔体操を行い、排泄も誘導を行うなど、日常生活の維持に努めている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来ることは利用者本人にしてもらい、見守りや声掛けを行うようにしている	/	◎	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人ひとりの得意分野を把握し、習慣や楽しみを見つかるお手伝いをしている	/	/	/	洗濯物たたみや部屋への収納、お盆拭きなど、職員は利用者にも声をかけ、役割を担ってもらっている。中には、カレンダーに、その日の○印を付けることを日課にしている利用者もいる。また、編み物や計算、ぬり絵などが得意な利用者には、好きな出番づくりを行い、作品づくりや手伝いをしてもらっている。さらに、歌を歌ったり、紙を丸めて雪合戦をしたりするなど、職員は利用者にも楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりの得意分野を把握し、発揮できる場をつくるように努めている	○	△	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者の着たい服を着てもらったり化粧や整容のお手伝いしている				毎朝、自分で服を選んで着替え、化粧水などを付けている利用者もいる。また、服装や整容の汚れや乱れが見られた場合には、周りの利用者に気づかれないように、居室に移動して着替えてもらったり、さりげないフォローをしたりするなどの対応をしている。定期的に、訪問の理美容を活用して、利用者の髪型を整えているほか、馴染みの美容室がある場合には、相談の上で家族に支援をお願いしている。さらに、中には普段着に着替えてもらい、夜にはパジャマに着替えてもらうなど、メリハリのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	ご家族や本人の希望に沿って支援している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	ご家族に協力してもらい、本人の似合うものを持ってきてもらったり職員が利用者と一緒に選べるように支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	◎	外出する際には天候や季節に合わせてもらっている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバールしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	髪、衣類や汚れがあった際には職員が必ずカバーを行い、着替える際には居室に連れて行くなどプライバシーを大切にしている	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	理容、美容の際には本人と家族の意向を聞いている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	重度の利用者はほほえないが、本人の好みの物を選んでもらっている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	栄養面、季節の食べ物を取り入れるなど食事の大切さを理解している				法人・事業所として、業者と契約を行い、管理栄養士がバランスの取れた献立で、湯煎する食品などを配達され、各ユニットのキッチンで、炊飯や汁物、サラダなどを準備するとともに、盛り付けて利用者に食事を提供している。利用者には、お盆拭きや後片づけなどのできることを利用者に手伝ってもらうとともに、一緒にいも餅などのおやつ作りをしている。アレルギーや苦手な物がある利用者の情報は、事前に業者に伝えて、代替品などを用意してもらうことができている。コロナ禍以前は、近隣の喫茶店などに外出しに行くこともできていた。また、行事等の際には、季節に応じた業者の特別メニューを提供することもある。茶碗や箸などの食器類は、事業所で用意した使いやすい物を使用している。ほとんどの利用者が自分で食事を摂ることができ、職員は見守りやサポートを行うとともに、働き方改革に対応して、職員が順番に休憩時間を活用して、食事を摂るなどの対応をしている。中には、食べこぼしから、エプロンを着用して、食事を摂っている利用者もいる。さらに、リビングに面したオープンキッチンで盛り付けなどを行うこともあり、利用者は食事の音や匂いを感じるとともに、食事前には口腔体操を行い、食事が待ち遠しくなるような雰囲気づくりに努めている。加えて、月1回給食会議が行われ、残食や良く食べた物などの嗜好や要望などを業者に伝えるとともに、年2回栄養士からアドバイスももらうこともできている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	コロナ禍により利用者や買い物には行けないが、一緒におやつを作ったり後片付けを一緒に行う時もある			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	家事の好きな利用者には後片付けを手伝ってもらうなど協力してもらっている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居前の聞き取りや都度本人に聞き取り、好きな物や嫌いな物、アレルギーの有無を把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのよいもの等を取り入れている。	◎	行事の際には、利用者の好きなものを取り入れたり、季節感の味わえる食材を取り入れたりしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼、嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者一人ひとりに合わせた形態で食事を作り、盛り付けの工夫や嚥下状態にあわせて調理方法にしている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器を使用している。利用者様の状態に合わせて食器を選んでいる。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食事をすることはないが、食事中的見守りやサポートを行っている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	対面キッチンになっており、調理の音や匂いなどは部屋中に広がっている。		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	利用者一人一人の食事量や水分量を記録し、その日の摂取量がわかるようにしている				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	利用者にあつた形態で食事を作り、水分摂取量の少ない利用者には声掛けを行ったりこまめに水分を提供するなどの工夫をしている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	食事量や形態、体重などを評価してもらい、アドバイスを受けている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材を適正温度で保管し、調理器具の衛生管理を行っている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの重要性を理解しており、一人一人の利用者の口腔ケアにかかわるようにしている	/	/	/	歯科医等から、指示や舌ブラシの使用などのアドバイスをもらい、職員は口腔ケアの重要性を理解している。法人として、訪問調査月の12月に、口腔ケアの勉強会を予定している。毎食後と就寝前に、職員は声をかけて、利用者はリビングにある洗面台で、歯磨きやうがいなどの口腔ケアを実施するとともに、必要に応じて、職員は見守りやサポートをしている。また、自分で歯磨きができる利用者を含めて、職員は全ての利用者の口腔内の状況を確認することができており、異常が見られた場合には、家族に連絡して歯科受診に繋げている。さらに、義歯は夜間に預かり、洗浄や消毒液に浸けるなど、清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に、口の中の状態を観察している。口腔体操や唾液マッサージをして口腔にも気をつけている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	定期的な歯科医から指導してもらい、日常の支援につなげている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯の洗浄の支援を行い、夜間は洗浄液に入れて管理している	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、歯磨き、義歯の洗浄の支援をしている。異常があれば家族に連絡している。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	布パンツで過ごせる方には布パンツでももらい、定期的にトイレ誘導を行い、排泄の失敗などがないよう支援している	/	/	/	事業所では、利用者がトイレで排泄できることを基本として、支援が行われている。多くの利用者は紙パンツを使用しているが、職員の定期的な声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツで過ごすことのできている利用者もいる。また、排泄パターンを把握して、利用者の状態に合わせた誘導などの対応もしている。さらに、おむつやパッドなどの排泄用品の使用時や見直し時には、利用者の心身状況や排泄状態、失敗の状況などを踏まえて、職員間で適切な用品の使用などを話し合うとともに、利用者や家族に確認の上で使用している。加えて、運動や水分量、腹部マッサージ、軟便剤、センナ茶などを取り入れて便秘対策に努めるとともに、利用者が自然な排便が行えるよう支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	運動、水分量の調整を行い、便秘にならないよう支援している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	利用者一人一人の排泄パターンを記録に残し、把握している。それに合った声掛けやトイレ誘導を行っている	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレで排泄できるよう、定期的に声掛けを行い、利用者に合わせて紙パンツ、パッドの利用をしている	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄の記録を残し、排泄困難な利用者について職員間で話し合って改善策を検討している	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、その人に合わせた声掛けを行っている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	オムツを使用する前にご家族に連絡し、本人にも相談した上で使用している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	利用者の状態、時間に合わせて、下着、オムツを使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	定期的なトイレ誘導や運動を行ったり水分量の調整を行い、自然排便を促している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者の好みの温度にしたり、習慣にそって入浴してもらっている	◎	/	○	週2回、利用者は午前中の時間帯に入浴をすることができる。事業所には、個別浴槽と機械浴槽があり、利用者の状態に合わせて使い分け、職員は安心安全な入浴を支援している。利用者の希望に応じて、職員は湯の温度や湯船に浸かる長さなどに、柔軟に対応をしている。中には、入浴を拒む利用者があり、職員が前日から前もって声をかけて、入浴の準備をしてもらったり、時間帯や日にちを変えて声かけをしたりするなど、入浴してもらおう工夫をしている。また、自分でできる部分の洗身してもらい、職員はできない部分のサポートをしている。さらに、利用者には、ゆっくりと職員と話しをしながら入浴してもらおうなど、少しでも入浴が楽しみになるような支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	他利用者様と重ならないよう、着替えから入浴が終わるまで一人ずつ入ってもらっている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	職員一人に対し利用者一人体制を取り、出来ることは自分でしてもらいながら職員はサポートしている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴拒否がある方には理由を聞き、原因を探り、入浴方法や日にちを変えるなどの工夫をしている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴日にはバイタルチェックを行い、健康状態を確認している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者が定期的に巡回を行い、パソコンへの記録や申し送りなどで他職員に把握できるようにしている				事業所には、入居前から眠剤を使用している利用者がいるものの、医師に報告を行い、指示を仰いでいる。中には、2日間ぐらいい寝ない利用者や昼夜逆転している利用者が見られるが、日中に極力起きて過ごしてもらい、体操などの活動量を増やすなど、夜間に利用者が安眠できるような支援に努めている。また、不眠が続く場合には、利用者の体調面を考えて、医師に相談を行い、眠剤などを処方してもらう場合もある。夜間に眠れない利用者には、リビングで職員と一緒に会話をしながら過ごしてもらうとともに、様子を見ながら居室へ誘導している。さらに、利用者の生活リズムで、日中に昼寝や休息をとってもらうこともある。現在は、ほとんどの利用者が、夜間に安眠することができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	夜眠れない利用者には昼間レクに参加してもらったり、なるべく起きていてもらうなどの工夫をしている				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中の様子や支援内容は細かくパソコンに記録を残し、病院受診の際に医師に報告するなど行っている				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組みを行っている。	◎	一人一人の生活リズムに合わせて、昼寝をしてもらったりソファで休んでもらったり等、休息を取ってもらうている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	電話をしたいと訴えのある利用者には事務所から電話をしてもらったり、毎月ご家族へ手紙を送っている				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙が書けない利用者には職員が手伝いを行っている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話中は席を外すようにしている。耳が遠い利用者様については、職員が内容を伝え、話がスムーズにできるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙は本人に伝え、電話で礼が伝えられるようにしている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族からの電話は取り次ぐようにしている。かける時間帯は、忙しい時間帯をさけてもらっている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	お金の持ち込みは基本的にはお断りしている				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	必要な物は家族に持ってきてもらうか、家族と一緒に買い物に行くようにしてもらっている				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金の所持については家族と相談した上で決めている				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	所持方法などは入所時に家族と本人に相談した上で決めてもらっている				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	法人内でお金の預かりは禁止となっている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	窓越しの面会時お互いの声が聞けるよう、お互い携帯電話を持って話すなど支援している	○	○	コロナ禍において、事業所には外出や面会などの制限が設けられ、面会や外泊などの要望が利用者から出されるものの、対応が難しい状況となっている。また、面会はガラス越しで、携帯電話を使用して会話をするなど対応をしている。さらに、病院受診は家族に同行支援をお願いしており、その際に利用者と一緒に直接会って会話をしたり、外食は控えてもらっているが、自宅に立ち寄って、好きな物を食べてもらうなどの対応をする家族もいる。	
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気軽に出入りが出来るようにしている	◎	○	○	事業所前は道路に面しており、駐車場も数台完備され、周りに馴染んだ建物には、来訪しやすい雰囲気を感じられる。また、玄関はガラス貼りで、左右にある自動ドアが日中開放されている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	季節感を味わってもらうために季節に合わせて壁に飾りつけをしている	○	○	◎	リビングや廊下は広くて明るく、清掃や消毒、換気が行き届いているほか、職員が温度や湿度を確認して調整するとともに、空気清浄機も置かれるなど、快適な空間となっている。柱を囲むように、カウンターが取り付けられ、ちょっとした物を置くほか、記録や職員同士の話し合いの場などにも活用することができる。壁などの至る場所には、デザインされたクリスマスの飾り付けが行われ、利用者からは「ケーキを食べたい」などの会話も聞かれるなど、話題づくりにも繋がっている。また、カウンターキッチンから、職員は食事の用意をしながら、リビングのテーブルやソファに座っている利用者を見渡すことができる。さらに、少し距離をとった場所にテーブルなどが置かれ、感染対策も行われている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除し、利用者にとって不快な臭いや汚れがないように配慮している			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節感を味わってもらうために季節に合わせて壁に飾りつけをしたり、季節に合わせた行事を毎月実施している			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	利用者に合わせて席の配置を考え、好きな時に部屋に戻ってもらう等の配慮をしている				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	本人の使い慣れたものや持ち込みたいものは家族とも相談して部屋に置くようにしている	○		○	居室には、エアコンやベッド、タンスなどが備え付けられている。利用者はテレビや家族の写真などを持ち込むことができる。また、片付けられ、すっきりとした印象の居室も多い。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレや自分の部屋など、分かるように印や大きな字で名前を書くなどの工夫をしている				○ 居室には、部屋番号とそれぞれに違うスイカや柿などのフルーツの目印が取り付けられているほか、認識しにくい利用者の部屋には、大きく名前が書いた表示などを行っている。また、トイレにも分かりやすい表示が行われている。さらに、事業所はバリアフリー構造で、リビングや廊下も広く、車いすや手押し車を使用している利用者にも、移動しやすい動線が確保されている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	新聞、雑誌など手に取れるところに置いている				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	出入り口の鍵については理解しているが、難施のリスクを考え、地川からは、自由に出入りができないようにしている。	◎	◎	○	職員は勉強会などで学び、鍵をかけることの弊害を理解している。事業所の玄関前は道路に面していることもあり、日中に、来訪者は外部から入室できるようになっているものの、利用者の安全面などを考えて、家族の理解を得た上で、内部から自由に屋外に出られないようになっている。また、屋外に出たい利用者には、職員が付き添い、外気浴や駐車場の敷地内を歩くなどの対応をしている。夜間は防犯のため、20時から8時まで、玄関の施錠をしている。さらに、コロナ禍において、外部からの来訪者には、インターホンに対応するようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	内側からの鍵については家族も理解してくれている				
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	利用者一人一人の病歴などは職員の見えるところにサマリーを置き、常に確認できるようにしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者一人一人のバイタルチェックや身体観察を毎日行い、記録に残している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になることがあれば他職員に相談し、看護師やかかりつけ医に相談できる体制を作っている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人と家族の希望する医療機関を受診してもらっている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人や家族の意向を聞き、病院受診をしてもらったり、電話で連絡して状況の報告をしている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診結果の報告などは家族に連絡し、今後の事を相談できるようにしている				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時に本人に関する情報を手紙等でお渡ししている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	現在の状況や退院時期など、病院関係者と連絡を取っている。定期受診の際に、お手紙を持っていくこともある。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日常で変わったことや普段の状況を看護師に相談し、報告している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	法人内の診療所に看護師にいつでも連絡できる体制を作っている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日朝夕2回バイタル計測し、記録に残している。異常があれば看護師に相談し、指示をもらっている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	利用者一人一人の服薬している目的や用法を理解し、記録に残したり家族に連絡し、情報を共有している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬前、服薬後のダブルチェックや口の中の確認など、服薬ミスがないよう取り組みを行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	副作用と見られる症状が出た際には薬を中止するなど、常に利用者の状態を観察している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	家族様とは話し合いを行って方針共有できている。				事業所には、「重度化した場合における対応の指針」があり、入居時に、家族に対応できることを説明するとともに、要介護度4・5などの重度化した場合には、法人内にある特別養護老人ホームなどへ転居する必要があり、事業所で看取り支援を実施していないことは伝えていく。また、医療行為の必要や事業所での生活を送ることが難しくなった場合には、家族や医師、関係者を交えて話し合い、方針を共有している。さらに、事業所では、利用者が特別養護老人ホームや老人保健施設、病院等への転院の手続きなどの支援もしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	方針共有できている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の思いや力量を把握しながら、見極めを行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	施設としての地対応については、入居時から説明している。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	×	重度化した場合の対応については、検討しているが、看取りができないので、今後検討していく必要がある。現在は、特養にお願いする形となる。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の考えを親身になって聞くなど、相談や支援を心がけている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	定期的に研修や勉強会を行い、学びの場を設けている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	勉強会を行い、BOPを作成し、すぐに確認できるようにしている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	厚労省や市のホームページなどで確認し、情報収集に努めている				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は手洗いなどを徹底し、アルコール消毒液を玄関に置くなどして清潔保持に努めている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族の気持ちに寄り添えるよう、本人の情報をなるべく細かくお伝えし、共有している	/	/	/	コロナ禍以前は、敬老会の行事や運営推進会議などに、家族の参加を呼びかけ、交流を図ることができていたものの、コロナ禍において、家族の参加できる行事の開催は自粛をしている。事業所では、家族とのガラス越しの面会にも対応しており、携帯電話を使用して、会話を聞き取りやすい工夫が行われているほか、テレビ電話を使用したオンラインの面会にも対応をしている。また、前回の調査以降に、年4回竹梅だよりを発行するとともに、運営推進会議の会議録を家族に送付するようになり、事業所の出来事や職員の入退職なども伝えることもできている。さらに、利用者毎の担当職員が、利用者の様子などを書いた手紙を送付して、近況を伝えている。来訪時や電話連絡時を活用して、職員は利用者の様子を伝えた上で、家族から意見や要望を聞くよう努めている。加えて、コロナ禍で感染対策を図りながら、集合形式の運営推進会議を開催することができ、一部の家族に参加協力してもらい、リビングで利用者と合同のレクリエーションを行うこともできた。12月に実施するクリスマス会では、家族にプレゼントを用意してもらい、笑顔の写真を送付を予定している。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ禍のため、家族が施設内に入ることをお断りしている	×	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月家族あてに手紙を書き、利用者の日常の様子を伝えたり、電話で報告している	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	家族様にも相談し、本人様への対応を考えたり決めたりする事もある。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議を開催し、行事については報告出来ている。	◎	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	転倒リスクがついてくるが、出来る事はして頂けるように、支援していくことを説明している。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	利用者の変化や支援方法など、ご家族に連絡し、了解を頂いている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に、家族様に具体的に説明し、理解や納得を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居についての説明も、入居前の契約時に、家族様にきちんと説明し、了承と同意を得ている。	/	/	/	
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設前から、施設の説明を地域の方に行っている。	/	△	/	コロナ禍以前は、地方祭のだんじりの運行時に、お花を出したり、利用者と一緒に、公民館のいきいき学級の参加したり、小学校の運動会を見学に行くなどの交流を図ることもできていた。現在は、外出や面会などの制限が設けられ、交流できる機会はほとんどなく、管理者は、「コロナ禍の収束後には、市の広報紙などの情報を見て、地域の文化祭などの行事に参加して、交流を図りたい」と考えている。今年(令和4年)は、3年ぶりに西条祭りが開催され、事業所の窓から、だんじりの運行が行われる様子が見られ、利用者は大変喜んでいる。また、職員や利用者は、近隣住民に会った際には、積極的なあいさつに努めている。コロナ禍の収束後には、早期に地域との交流が再開されることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	コロナ禍のため町内会等への参加は出来ていないが、地域の人への気持ちのよい挨拶は心がけている	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の人に理解を得られるよう心掛けている	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナ禍のため関わりがなくなってきた	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナの感染予防に努めているため、立ち寄ってもらう等は出来ていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ禍のため、ボランティアをお願いできていない	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	消防署や月一回散髪に来てもらうなど、協力を得られている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	利用者の家族や市役所の方に参加してもらっている	○	/	○	コロナ禍において、運営推進会議は書面開催が続いていたものの、直近の2回は、感染対策を講じた上で、集合形式の会議開催を行うことができています。会議では、利用者の入居状況や活動状況などを報告を行い、参加メンバーとの意見交換が行われています。また、会議の参加メンバーや家族に会議録等を送付することもできています。集合形式の会議では、一部の家族も参加して、合同のレクリエーションが行われ、家族には大変喜ばれている。さらに、書面開催においても、参加メンバーや家族に意見を出してもらい、回答を行う工夫も行われていた。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	運営推進会議で取り組み状況の報告を行い、意見をもらっている	/	△	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	ご家族様に資料を郵送したり電話連絡し、気軽に参加してもらえるよう配慮している	/	/	○	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念を通し、個々の努力と共に取り組まれている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	利用者様や家族様には伝わっているが、地域の方々には伝わっていないのではないか。	×	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	代表者は、管理者や職員の力量を把握し、定期的な研修を開催し、参加している。	/	/	/	法人の規模が大きいため、代表者の来訪はないものの、定期的に法人の本部長等の来訪があり、管理者の意見を聞くとともに、職員から出された意見を伝えることもできる。法人・事業所として、職員の自己評価や勤務状況、実績などをともに、人事考課の評価が行われ、働きがいのある職場づくりに取り組んでいる。また、年1回職員のストレスチェックが行われているほか、10月の法人内の人事異動で交代した新たな管理者は、職員の顔色や様子を見ながら、気になる職員に声をかけて意見を聞くとともに、相談に応じている。中には、介護経験のない職員もおり、介護職員初任者研修などを受講してもらうとともに、年2回法人内研修のほか、毎月職員会議の中で、職員が順番に講師役を務める勉強会も実施され、職員のスキルアップにも努めている。さらに、4名の技能実習生が勤務しており、法人として働きやすいように、専用の職員寮も整備されている。加えて、20歳代から70歳代まで幅広い年齢層の職員が動いており、話しやすい良好な関係が築かれ、直近の1年間に離職した職員はいない。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員のスキルアップのため、資格取得の機会を持つよう話をしたり、勉強会を開いている。法人内の研修にも参加している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	勤務状況や実績など、定期的に評価し、やりがいのある職場づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	法人内での情報共有を行い、一緒に勉強する機会を作るようにしている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の話さ、細目に聞くようにしている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	定期的な虐待についての勉強会や話し合いを行い、どのようなことが虐待、不適切ケアなのか理解している	/	/	◎	事業所には、身体拘束適正化委員会が設けられ、定期的に職員間で話し合いを行うとともに、虐待防止などの勉強会が行われ、職員は学んで理解をしている。また、不適切な言動が見られた場合には、職員間で注意し合うとともに、管理者に報告して、該当職員に確認を行い、注意喚起をしている。さらに、急を要する場合には、「ちょっと待って」などの言葉も聞かれるものの、職員が利用者に分かるように理由などを説明を行い、利用者の理解が得られるよう努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	申し送りや日々の現場の中で、話す機会を持っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	勤務状況を確認し、本人の負担の軽減に努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会を通し、理解している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	勉強会や職員間で話し合いをし、どのようなことが身体拘束にあたるのか確認している	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	◎	家族様から拘束や施設の要望はなく、身体拘束は行っていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	成年後見制度など、色々な仕組みについて、理解できている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	市のパンフレットなどで、相談や支援を行っている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変や事故発生時についての対応を周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	初期対応について周知している				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットを書くなどし、事故防止に取り組んでいる				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	利用者一人一人のリスクや危険について職員間で話し合い、事故防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情マニュアルを作成、対応方法も検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	今までに苦情はなかった。苦情が寄せられた時は、手順に沿って対応する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	今までに苦情はなかった。苦情があった際は、前向きな話し合いと関係づくりをしていく。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	2か月ごとの運営推進会議を行っている。ご意見箱も設置している。	○		○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族からは、来訪時や電話連絡時を活用して、職員から利用者の様子を伝えて、意見や要望を聞くよう努めている。また、家族から「どんなものを食べているかわからない」などの意見が出され、全ての家族に、1か月分の献立表を送付するようになっている。さらに、玄関には御意見箱が設置されているものの、コロナ過で家族の来訪が減少していることから、ほとんど利用されていない状況となっている。加えて、日々の業務の中で、管理者は職員から意見や提案を聞くとともに、出された意見を試行錯誤しながら、利用者のサービスの向上に繋げられるよう努めている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	苦情や相談できる公共機関は、掲示している。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	△	職員の意見などは、管理者が窓口となり、聞き取りを行っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員の意見や提案を取り入れ、利用者主体の支援を検討している。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	管理者・各ユニットリーダーが職員の意見を聞きながら、評価をしている。				外部評価の自己評価は、職員に意見を聞きながら、管理者やユニットリーダーを中心に、ユニット毎に作成をしている。また、サービスの評価結果は、職員会議の中で報告を行い、職員間で目標達成に向けて取り組んでおり、新たに竹梅だよりの発行や運営推進会議の報告などが行われるようになっている。さらに、運営推進会議を活用して、参加メンバーに評価結果を報告をしている。利用者家族等アンケート結果から、家族にサービス評価の取組みが十分に理解されていないことが窺えるため、今後は、運営推進会議の中で、サービス評価の意義や目的を伝えたり、参加メンバーや家族に取組み状況のモニターの協力を呼びかけて、意見をもらったりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果を踏まえて、取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	△	評価結果は、ご家族へは郵送している。	×	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	資料の内容の確認と意見を聞くことだけになっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	定期的に勉強会を行い、BCPマニュアル作成するなど取り組みを行っている				定期的に防災の勉強会を実施するとともに、法人・事業所として、BCP(事業継続計画)のマニュアルを作成している。年2回、様々な想定をした避難訓練を実施するとともに、竹梅だよりを活用して、訓練の様子を報告している。事業所のある地域は、ハザードマップの対象や大規模地震の発生時の津波被害が想定されるため、避難確保計画等の作成を予定している。災害発生時には、状況に応じて垂直避難の実施を予定しているとともに、食料などの備蓄品を2階に確保している。また、法人内で災害発生時の協力支援体制を整えられ、前年度には、法人全体で災害を想定した訓練を実施することもできている。利用者家族等、地域アンケート結果から、災害への備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、避難訓練の様子の写真を事業所内に掲載したり、家族や運営推進会議の参加メンバーに避難訓練への参加協力を呼びかけたりするなど、家族等への安心安全な取組みが理解してもらえよう、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回避難訓練を行っている				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	避難経路や物品の確認を定期的に行っている				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署や近くの同じ法人内の事業所と連携を図る体制を確保している	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	同じ法人内でのみ訓練を行っている				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	コロナ禍により実施できていない				法人と連携を図りながら、地域住民から入所などの相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。道に迷っている近隣の高齢者に、職員が丁寧に道案内などの対応を行ったこともある。また、事業所では、外国人の技能実習生の受け入れにも協力をしている。さらに、コロナ禍において、市行政や地域包括支援センターが主催する会議や研修に参加する機会は減少しているものの、法人内の他のグループホーム等と協力をしながら、連携を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	近隣に認知症の方がいると道を説明するなど対応している		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ禍により実施できていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	技能実習生の受け入れをしている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナ禍により実施できていない			○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 12 月 15 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3890600343
事業所名 (ユニット名)	社会福祉法人 亀天会グループホーム 竹梅小路 梅ユニット
記入者(管理者) 氏名	篠原 久子
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 19 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 ～あたたかく、さりげなく～「出会い」と「笑顔」を大切にします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ○苑で活動している内容を外部の人に知ってもらおう。 一広報誌の作成を行い、家族様に配布したり、玄関先に貼って知ってもらうようにした。広報誌の中に防災訓練の写真も入れた。また、クリスマス会や敬老会では、家族様にプレゼントの依頼を行い、行事の内容が伝わるように心がけた。外部評価の結果も送付を行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 市内中心部にある事業所は、近隣に西条市役所があるほか、買い物や飲食などの利便性も良く、生活を送りやすい場所に立地している。約5年前の事業所の開設当初から、介護ソフトが導入され、パソコンで職員が入力するとともに、職員間で情報共有が行いやすくなっている。また、広い共用空間は明るく、清掃や消毒、換気、温度調整などが行き届き、快適な空間となっている。コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられているものの、利用者が屋外に出て、歩行や外気浴をしたり、ドライブをして紅葉を見に行ったり、ガラス越しの面会に対応するなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう取り組んでいる。さらに、コロナ禍でも感染対策を図りながら、集合形式の運営推進会議を開催することができ、一部の家族に参加協力してもらい、リビングで利用者と同様のリクリエーションも行われ、参加した家族に喜ばれている。4名の技能実習生が勤務しており、法人として働きやすいように、専用の職員寮も整備されている。加えて、20歳代から70歳代まで幅広い年齢層の職員が勤務しており、話しやすい良好な関係が築かれているほか、働き方改革で、休憩スペースを利用したきっちりとした休憩時間の確保、希望休や有給休暇も取得できる働きやすい環境が整えられ、直近の1年間に離職した職員はおらず、利用者の穏やかで楽しみのある生活に繋がっている。前回の外部評価の目標達成計画にも職員全員で取り組み、新たに竹梅だよりを発行したり、運営推進会議の会議録を家族に送付したりするなど、家族に新たな利用者の様子や出来事を伝える機会を設けることもできている。</p>
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	話を傾聴し、共有できている。	○	/	○	入居前に、管理者とユニットリーダー等が自宅を訪問して、利用者や家族から、思いや意向などの聞き取りをしている。また、把握することが困難な利用者には、家族から情報を聞くとともに、日々の生活の中で、職員は表情やしぐさ、行動などから、思いをくみ取るよう努めている。把握した内容は、面接記録表やアセスメントシートなどに記載し、職員間で情報共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	様子観察を行いながら、把握に努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族とは話し合いが出来ているが、親戚や友人との話し合いは行っていない。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	ケース記録や送りノートにて共有化を図っている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	必ず様子観察を行い、場合によっては家族に報告や相談もしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	必ずサマリーに目を通している。必要時は家族様に面会時や電話をかける際に伺う時もある。	/	/	○	入居前に、管理者等が自宅等を訪問し、介護ソフトに導入されているアセスメントシートを活用して、利用者や家族から、以前の仕事や趣味、昔のこと、生活歴などの聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の関係者や介護支援専門員から情報を聞くほか、病院からサマリーなどの提供を受けることもある。さらに、日々の生活の中で、職員は利用者から新たな情報を聞くとともに、電話等で家族から情報を聞くこともある。加えて、把握した情報はパソコンを活用して、アセスメントシート等に入力するとともに、6か月に1回情報の更新を行い、職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	職員が協力的に把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	パターンを調べ、把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	本人様の思いを職員間で話し合い、意見を出し合っている	/	/	○	事前に、把握したアセスメント情報等をもとに、利用者や家族の意見、医師の指示などを踏まえて、ユニット会議を活用して、職員間で気づきやアイデアを出し合いながら、利用者本人の視点で、より良いサービス提供を検討している。また、会議では、「〇〇ではどうか」などの職員からアイデアや提案も出され、サービスの試行を行い、良ければ継続した支援に繋がっている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	アセスメントを行い、本人様がより良く暮らすための検討をしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	介護計画に反映されている。	/	/	/	事前に、利用者や家族、関係者から意見を聞くほか、事前に把握した情報をもとに、月1回実施するユニット会議を活用して、カンファレンスを実施して職員間で話し合い、計画作成担当を中心に介護計画を作成している。コロナ禍において、カンファレンスには利用者や家族等が会議に参加することはないものの、利用者や家族の思いや意向を反映した内容となるよう努めている。また、法人として、ケアプランの立案などの研修も行われている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	入居時のカンファレンスを通して、ご家族に意向の確認を行い、職員間で検討を行っている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	要介護4・5の方など、法人内の特養へ移行される方が多い。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	ご家族には、病院受診の支援や必要な物の購入など、色々な面で協力をお願いしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画の内容の共有を行い、意見を出し合っている。	/	/	/	○ 介護計画の内容は、カンファレンスの中で共有するよう努めるとともに、事務室に個別のファイル置き、職員はいつでも確認することができるようになっている。約5年前の開設時から介護ソフトが導入され、職員はパソコンを活用して、計画に沿ったケース記録を入力することができ、職員間で内容確認や共有を行いやすくなっている。また、利用者の夜間の状況や発した言葉などを、詳細に記録に残すことができる。中には、外国からの技能実習生やパソコン入力に不慣れな職員がいるものの、話しやすい良好な関係が築かれ、職員間でフォローし合うこともできている。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日のケース記録に入力している。	/	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	状態の変化がある時や半年に1回は見直しを行っている。入居が初めての時は、3か月で見直しを行っている。	/	/	/	◎	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリングを実施している。	/	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態に変化があった時やご本人、ご家族の意向に変化があった時は、計画書の見直しを行っている。	/	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	日々の申し送りの時や課題が生じた時は話し合いを行い、ケアの見直しを行っている。	/	/	/	○	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	お互いの情報や気づきは、活発に行われており、職員同士の関係性が良く、雰囲気も良い。	/	/	/	◎	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	会議は、職員が出席しやすい時間帯を選び、話を行っている。議事録の作成や申し送りノートを活用している。	/	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	パソコンのケース記録や申し送りノートを活用している。	/	/	/	○	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	「その日したいこと」は把握し、1人1人の望みが叶えられるように努めているが、毎日出来るとは限らない。	/	/	/	/	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	利用者様に選択して貰い、難しい場合は職員がアドバイスするなどしている。	/	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床、就寝など、一人一人のペースに合わせている。排泄や食事の時間や方法なども、一人一人のペースに合わせている。	/	/	/	/	
		d	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員と利用者様が相談したりしながら行っている。	/	/	/	/	○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	表情や反応を注意深く観察し、本人の意向や考えを第一に考え支援している	/	/	/	/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	会議等で勉強会を行い、利用者の尊厳やプライバシーの事について学びの場を設け、常に利用者のプライバシーを大切にしよう努めている	○	○	○	日々の体操や歩行、飲み物、着る服、レクリエーションなどの様々な場面で、職員は利用者へ「何をしますか」などの声かけを行い、自己決定できるよう支援している。また、意思表示が難しい利用者には、職員が二者択一などの選択肢を絞るとともに、「どちらを着ますか」などの利用者に声をかけて、表情やしぐさを観察するなど、少しでも選択してもらい機会を設けている。さらに、誕生会でお祝いをしたり、屋外に出た際には話題がはずんだりするなど、利用者の活き活きとした表情を見られる。	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	プライバシーに配慮している。	/	/	/		/
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	ノックや声掛けを必ず行い、用件を必ず伝え訪室している。	/	/	/		○
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	遵守できている。	/	/	/		/



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	職員からも普段から利用者様にお礼や感謝の言葉を伝えるなどしている。	/	/	/	利用者から昔の情報を教えてもらったり、洗濯物たたみやお盆拭きなどを手伝ってもらったりした場合には、職員から「ありがとうございます」などの感謝の言葉を伝えている。また、車いすを他の利用者が押すのを手伝ったり、励ましの声をかけたりするなど、利用者同士が助け合う場面も見られる。さらに、職員は利用者同士の関係性を把握して、配席などを考慮するとともに、何度も同じことを言い、怒って声を出すなどのトラブルが発生しそうな場合には、早期に職員が間に入り、話しを聞くなどの対応をしている。仲の良い利用者同士が近くに座り、話しをできるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者の得意なこと、苦手なことを理解し、お互いが補っていける関係性を築いてもらっている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	お手伝い等の役割分担などをして貰っている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	声かけや移動、職員が間に入るなどして対応している。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	面接票やサマリー、本人様からの話などで人間関係や環境についての把握をしている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナにより外出は難しかったため、窓越しでの面会のみとなっている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナにより希望に沿うことは難しく、裏の駐車場でのレクや、時々近くに散歩に行っているが、回数は限られている。	×	×	△	コロナ禍において、外出できる機会は減少している。天気の良い日には、屋外に出て外気浴をしたり、敷地内を歩いたり、歌を歌うなど、少しでも屋外に出て、利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、病院受診は、家族に同行支援をお願いするとともに、自宅に立ち寄り、好きな物を食べて帰る利用者もいる。さらに、感染状況を見計らいながら、ドライブをして紅葉を見に出かけ、鯉に餌をやったり、屋外でおやつを食べたりすることができ、利用者に大変喜ばれている。1月には、初詣に行くことを予定している。加えて、外出する機会が減少している代わりに、毎月クリスマス会などの季節の行事を開催したり、利用者と一緒におやつ作りをしたりするなど、少しでも利用者が楽しめるよう支援している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出行事は行っているが外部の協力は得ていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	定期的に勉強会を行い、認知症の理解に努め、ベストなケアが出来るよう職員間で話し合っている	/	/	/	職員は勉強会で、認知症状などを学ぶとともに、行動の原因などを職員間で話し合いをしている。また、ラジオ体操や歩行訓練、足で輪を渡すゲーム、足踏み、計算を取り入れた体操、計算、ぬり絵などを取り入れて、利用者の心身機能の維持に努めている。さらに、入浴の際の着替えの準備や食事など、利用者ができることやできそうなことは自分でしてもらい、職員は見守りやできない部分のサポートをしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	毎日、無理のない範囲で体操と口腔体操を実施し、できる事は本人様にして貰っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	危険性があった、ヒヤリとした場面では口が出るが、それ以外は利用者様になるべくして貰っている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	得意な事やできる事を見ながら、利用者様に作業のお手伝いをして貰うなどしている。	/	/	/	洗濯物たたみや部屋への収納、お盆拭きなど、職員は利用者様に声をかけ、役割を担ってもらっている。中には、カレンダーに、その日の○印を付けることを日課にしている利用者もいる。また、編み物や計算、ぬり絵などが得意な利用者には、好きな出番づくりを行い、作品づくりや手伝いをしてもらっている。さらに、歌を歌ったり、紙を丸めて雪合戦をしたりするなど、職員は利用者様に楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	得意な事やできる事を見ながら、利用者様に作業のお手伝いをして貰うなどしている。	○	△	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者の着たい服を着てもらったり化粧や整容のお手伝いをしている	/	/	/	毎朝、自分で服を選んで着替え、化粧水などを付けている利用者もいる。また、服装や整容の汚れや乱れが見られた場合には、周りの利用者に気づかれないように、居室に移動して着替えてもらったり、さりげないフォローをしたりするなどの対応をしている。定期的に、訪問の理美容を活用して、利用者の髪型を整えているほか、馴染みの美容室がある場合には、相談の上で家族に支援をお願いしている。さらに、中には普段着に着替えてもらい、夜にはパジャマに着替えてもらうなど、メリハリのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	ご家族や本人の希望に沿って支援している	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	職員が傾聴し、アドバイスをしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	本人様の好みの服を選んで貰っている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	声かけや居室への誘導を行い、なるべく他者に分からないように対応している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	利用、美容の際には本人と家族の意向を聞いている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度の利用者はほほえないが、本人の好みの物を選んでもらっている	/	/	○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	栄養面、季節の食べ物を取り入れるなど食事の大切さを理解している	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	コロナ禍により利用者や買い物には行けないが、一緒におやつを作ったり後片付けを一緒に行う時もある	/	/	○	法人・事業所として、業者と契約を行い、管理栄養士がバランスの取れた献立で、湯煎する食品などを配達され、各ユニットのキッチンで、炊飯や汁物、サラダなどを準備するとともに、盛り付けて利用者に食事を提供している。利用者には、お盆拭きや後片づけなどのできることを利用者に手伝ってもらうとともに、一緒にいも餅などのおやつ作りをしている。アレルギーや苦手な物がある利用者の情報は、事前に業者に伝えて、代替品などを用意してもらうことができている。コロナ禍以前は、近隣の喫茶店などに外出しに行くこともできていた。また、行事等の際には、季節に応じた業者の特別メニューを提供することもある。茶碗や箸などの食器類は、事業所で用意した使いやすい物を使用している。ほとんどの利用者が自分で食事を摂ることができ、職員は見守りやサポートを行うとともに、働き方改革に対応して、職員が順番に休憩時間を活用して、食事を摂るなどの対応をしている。中には、食べこぼしから、エプロンを着用して、食事を摂っている利用者もいる。さらに、リビングに面したオープンキッチンで盛り付けなどを行うこともあり、利用者は食事の音や匂いを感じるとともに、食事前には口腔体操を行い、食事が待ち遠しくなるような雰囲気づくりに努めている。加えて、月1回給食会議が行われ、残食や良く食べた物などの嗜好や要望などを業者に伝えるとともに、年2回栄養士からアドバイスももらうこともできている。
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	家事の好きな利用者には後片付けを手伝ってもらうなど協力してもらっている	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居前の聞き取りや都度本人に聞き取り、好きな物や嫌いな物、アレルギーの有無を把握している	/	/	/	
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのよいもの等を取り入れている。	○	行事の際に、利用者の好きなものを取り入れたり、季節感の味わえる食材を取り入れたりしている。	/	/	○	
		e	利用者一人ひとりの咀嚼、嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者一人ひとりに合わせた形態で食事を作り、盛り付けの工夫や嚥下状態にあわせて調理方法にしている	/	/	/	
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	在宅時と同じような食器を使用している	/	/	○	
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食事をすることは無いが、食事の見守りやサポートを行っている	/	/	△	
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	対面キッチンになっており、調理の音や匂いなどは部屋中に広がっている。	/	○	○	
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	1日のカロリーや栄養計算された食事を提供している。	/	/	/	
		j	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	職員で相談しながら、利用者様に応じた対応を都度行っている。	/	/	/	
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	給食会議を月1回行っている。	/	/	◎	
		l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	冷蔵庫内の清掃などは行き届いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	毎日必ず食後に利用者様に口腔ケアをして頂いたり、口腔体操を実施している。				歯科医等から、指示や舌ブラシの使用などのアドバイスをもらい、職員は口腔ケアの重要性を理解している。法人として、訪問調査月の12月に、口腔ケアの勉強会を予定している。毎食後と就寝前に、職員は声をかけて、利用者はリビングにある洗面台で、歯磨きやうがいなどの口腔ケアを実施するとともに、必要に応じて、職員は見守りやサポートをしている。また、自分で歯磨きができる利用者を含めて、職員は全ての利用者の口腔内の状況を確認することができ、異常が見られた場合には、家族に連絡して歯科受診に繋げている。さらに、義歯は夜間に預かり、洗浄や消毒液に浸けるなど、清潔保持に努めている。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	義歯の有無や虫歯の有無については把握できているが、舌の状態は把握出来ていない。			○		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	連携体制のある歯科から口腔ケアの指導や提案があり、職員が実行している。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯の洗浄ができていないか様子を見たり、義歯洗浄剤を使用している。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	口腔ケアごとに職員が見守りながら状態観察を行ったり、介助を行っている。					○
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	布パンツで過ごせる方には布パンツでもらい、定期的にトイレ誘導を行い、排泄の失敗などがないよう支援している				事業所では、利用者がトイレで排泄できることを基本として、支援が行われている。多くの利用者は紙パンツを使用しているが、職員の定期的な声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツで過ごすことのできている利用者もいる。また、排泄パターンを把握して、利用者の状態に合わせた誘導などの対応もしている。さらに、おむつやパッドなどの排泄用品の使用時や見直し時には、利用者の心身状況や排泄状態、失敗の状況などを踏まえて、職員間で適切な用品の使用などを話し合うとともに、利用者や家族に確認の上で使用している。加えて、運動や水分量、腹部マッサージ、軟便剤、センナ茶などを取り入れて便秘対策に努めるとともに、利用者が自然な排便が行えるよう支援している。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	運動、水分量の調整を行い、便秘にならないよう支援している					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	利用者一人一人の排泄パターンを記録に残し、把握している。それに合った声掛けやトイレ誘導を行っている					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	利用者様の身体の状況、排泄状態や失敗した状況を照らし合わせながら見直しを図っている。	◎		◎		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	施設で出来る範囲の対応策(水分補給、緩下剤の服薬など)で対応している。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	定期的なトイレ誘導や声掛けを行っている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	オムツを使用する前にご家族に連絡し、本人にも相談した上で使用している					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者の状態、時間に合わせて、下着、オムツを使い分けている					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	水分を多めに飲んでもらう、トイレに行って少し長めに座ってもらうなどお腹のマッサージなども行っている。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者の好みの温度にしたり、習慣にそって入浴してもらっている	◎		○	週2回、利用者は午前中の時間帯に入浴することができる。事業所には、個別浴槽と機械浴槽があり、利用者の状態に合わせて使い分け、職員は安心安全な入浴を支援している。利用者の希望に応じて、職員は湯の温度や湯船に浸かる長さなどに、柔軟に対応をしている。中には、入浴を拒む利用者があり、職員が前日から前もって声をかけて、入浴の準備をしてもらったり、時間帯や日にちを変えて声かけをしたりするなど、入浴を工夫をしている。また、自分でできる部分の洗身をしてもらい、職員はできない部分のサポートをしている。さらに、利用者には、ゆつくりと職員と話しをしながら入浴してもらうなど、少しでも入浴が楽しみになるような支援に努めている。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	他利用者様と重ならないよう、着替えから入浴が終わるまで一人ずつ入ってもらっている					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	介助や声掛けを行いつつ安全に入浴して頂いている。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	気分的な拒否であれば翌日に変更したり、最後にするなどして対応している。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定を行い、バイタル異常があれば中止にしたり、入浴順を変更して様子を見るなど対応している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者が定期的に巡回を行い、パソコンへの記録や申し送りなどで他職員に把握できるようにしている				事業所には、入居前から眠剤を使用している利用者があるものの、医師に報告を行い、指示を仰いでいる。中には、2日間ぐらいい寝ない利用者や昼夜逆転している利用者が見られるが、日中に極力起きて過ごしてもらい、体操などの活動量を増やすなど、夜間に利用者が安眠できるような支援に努めている。また、不眠が続く場合には、利用者の体調面を考えて、医師に相談を行い、眠剤などを処方してもらう場合もある。夜間に眠れない利用者には、リビングで職員と一緒に会話をしながら過ごしてもらうとともに、様子を見ながら居室へ誘導している。さらに、利用者の生活リズムで、日中に昼寝や休息をとってもらうこともある。現在は、ほとんどの利用者が、夜間に安眠することができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	昼夜逆転しないよう声かけや、運動して体を動かしてもらうなどしている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の様子や支援内容は細かくパソコンに記録を残し、病院受診の際に医師に報告するなど行っている				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	休みたい方は居室で休んで頂いている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人様が電話をかけるのが難しいため、通話は職員が介助を行っている。携帯電話で話をされる方もいる。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	通話が難しい利用者様は、手伝いを行っている。ご自分で部屋から電話をされる利用者様もいる。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	電話中は席を外すようにしている。耳が遠い利用者様については、職員が内容を伝え、話がスムーズにできるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙は本人に伝え、電話でお礼が伝えられるようにしている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	携帯電話で話される利用者様がいる。家族様から電話がかかってきた際に話しますか？という声掛けも行っている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	お金の持ち込みは基本的にはお断りしている				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	必要な物は家族に持ってきてもらうか、家族と一緒に買い物に行くようにしてもらっている				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金の所持については家族と相談した上で決めている				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	所持方法などは入所時に家族と本人に相談した上で決めてもらっている				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	法人内でお金の預かりは禁止となっている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	窓越しの面会時お互いの声が聞けるよう、お互い携帯電話を持って話すなど支援している	○	○	コロナ禍において、事業所には外出や面会などの制限が設けられ、面会や外泊などの要望が利用者から出されるものの、対応が難しい状況となっている。また、面会はガラス越しで、携帯電話を使用して会話をするなど対応をしている。さらに、病院受診は家族に同行支援をお願いしており、その際に利用者や直接会って会話をしたり、外食は控えてもらっているが、自宅に立ち寄って、好きな物を食べてもらうなどの対応をする家族もいる。	
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気軽に出入りが出来るようにしている	◎	○	○	事業所前は道路に面しており、駐車場も数台完備され、周りに馴染んだ建物には、来訪しやすい雰囲気を感じられる。また、玄関はガラス貼りで、左右にある自動ドアが日中開放されている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	季節感を味わってもらうために季節に合わせて壁に飾りつけをしている	○	○	◎	リビングや廊下は広くて明るく、清掃や消毒、換気が行き届いているほか、職員が温度や湿度を確認して調整するとともに、空気清浄機も置かれるなど、快適な空間となっている。柱を囲むように、カウンターが取り付けられ、ちょっとした物を置くほか、記録や職員同士の話し合いの場などにも活用することができる。壁などの至る場所には、デザインされたクリスマスの飾り付けが行われ、利用者からは「ケーキを食べたい」などの会話も聞かれるなど、話題づくりにも繋がっている。また、カウンターキッチンから、職員は食事の用意をしながら、リビングのテーブルやソファに座っている利用者を見渡すことができる。さらに、少し距離をとった場所にテーブルなどが置かれ、感染対策も行われている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、清掃を行っている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に動きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節に応じた歌を唄ったり、掲示物を作成したり職員から会話の中でそういう話題を提供したりしている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席替えや、居室でゆっくりしてもらうなどして貰っている				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人様の身体状況や本当に生活に必要な物かどうかの見極めもあり、必要な物は可能であれば本人様の好きな色やキャラクター、柄など伝えお願している。	○		○	居室には、エアコンやベッド、タンスなどが備え付けられている。利用者はテレビや家族の写真などを持ち込むことができる。また、片付けられ、すっきりとした印象の居室も多い。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや自分の部屋など、分かるように印や大きな字で名前を書くなどの工夫をしている				○ 居室には、部屋番号とそれぞれに違うスイカや柿などのフルーツの目印が取り付けられているほか、認識しにくい利用者の部屋には、大きく名前が書いた表示などを行っている。また、トイレにも分かりやすい表示が行われている。さらに、事業所はバリアフリー構造で、リビングや廊下も広く、車いすや手押し車を使用している利用者にも、移動しやすい動線が確保されている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	新聞、雑誌など手に取れるところに置いている				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らすこと、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることなく済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	出入り口の鍵については理解しているが、難施のリスクを考え、内側からは、自由に出入りができないようにしている。	◎	◎	○	職員は勉強会などで学び、鍵をかけることの弊害を理解している。事業所の玄関前は道路に面していることもあり、日中に、来訪者は外部から入室できるようになっているものの、利用者の安全面などを考えて、家族の理解を得た上で、内部から自由に屋外に出られないようになっている。また、屋外に出たい利用者には、職員が付き添い、外気浴や駐車場の敷地内を歩くなどの対応をしている。夜間は防犯のため、20時から8時まで、玄関の施錠をしている。さらに、コロナ禍において、外部からの来訪者には、インターホンに対応するようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	内側からの鍵については家族も理解してくれている				
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	把握できている。昔の病歴についてはサマリーを見て把握できるようユニット内に利用者様のファイル一覧がある。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者一人一人の病歴などは職員の見えるところにサマリーを置き、常に確認できるようにしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	利用者一人一人のバイタルチェックや身体観察を毎日行い、記録に残している				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	気になることがあれば他職員に相談し、看護師やかかりつけ医に相談できる体制を作っている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人と家族の希望する医療機関を受診してもらっている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	本人や家族の意向を聞き、病院受診をしてもらったり、電話で連絡して状況の報告をしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時に本人に関する情報を手紙等でお渡ししている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	現在の状況や退院時期など、病院関係者と連絡を取っている。定期受診の際に、お手紙を持っていくこともある。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日常で変わったことや普段の状況を看護師に相談し、報告している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	法人内の診療所に看護師にいつでも連絡できる体制を作っている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	利用者様の様子観察は常に行い、いつもと違う様子が見られたら職員間で共有化している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	臨時の薬などは服薬した時間やその後の様子などをケース記録に入力し、残している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	医師の指示通りに服薬を行っている。飲み忘れや誤薬が無いようチェック表を作成している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	新しく服薬する薬や臨時で飲む薬を含め、体調観察を行いケース記録に入力している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	管理者が家族様に説明や今後の対応の確認を行っている。				事業所には、「重度化した場合における対応の指針」があり、入居時に、家族に対応できることを説明するとともに、要介護度4・5などの重度化した場合には、法人内にある特別養護老人ホームなどへ転居する必要があり、事業所で看取り支援を実施していないことは伝えていく。また、医療行為の必要や事業所での生活を送ることが難しくなった場合には、家族や医師、関係者を交えて話し合い、方針を共有している。さらに、事業所では、利用者が特別養護老人ホームや老人保健施設、病院等への転院の手続きなどの支援もしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	重度化された場合、管理者が家族様に説明や今後の対応の確認を行っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	×	終末期の対応を当施設では対応していない。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	管理者より説明している。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を固めながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	重度や終末期の方がおられない。重度の手前の状態になられた場合、家族様と話し合いどうしていくかの話し合いは行われている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の考えを親身になって聞くなど、相談や支援を心がけている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	職員は看護師より勉強会で学ぶ機会がある。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症BCP有り。看護師からガウンテクニックの講習などあり。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	△	厚労省や市のホームページなどで確認し、情報収集に努めている				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗い、消毒はしっかりと行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族の気持ちに寄り添えるよう、本人の情報をなるべく細かくお伝えし、共有している	/	/	/	コロナ禍以前は、敬老会の行事や運営推進会議などに、家族の参加を呼びかけ、交流を図ることができていたものの、コロナ禍において、家族の参加できる行事の開催は自粛をしている。事業所では、家族とのガラス越しの面会にも対応しており、携帯電話を使用して、会話を聞き取りやすい工夫が行われているほか、テレビ電話を使用したオンラインの面会にも対応をしている。また、前回の調査以降に、年4回竹梅だよりを発行するとともに、運営推進会議の会議録を家族に送付するようになり、事業所の出来事や職員の入退職なども伝えることもできている。さらに、利用者毎の担当職員が、利用者の様子などを書いた手紙を送付して、近況を伝えている。来訪時や電話連絡時を活用して、職員は利用者の様子を伝えた上で、家族から意見や要望を聞くよう努めている。加えて、コロナ禍で感染対策を図りながら、集合形式の運営推進会議を開催することができ、一部の家族に参加協力してもらい、リビングで利用者と合同のレクリエーションを行うこともできた。12月に実施するクリスマス会では、家族にプレゼントを用意してもらい、笑顔の写真を送付を予定している。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ禍のため、家族が施設内に入ることをお断りしている	×	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月家族あてに手紙を書き、利用者の日常の様子を伝えたり、電話で報告している	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	家族様にも相談し、本人様への対応を考えたり決めたりする事もある。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議を開催し、行事については報告出来ている。	◎	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	転倒リスクがついてくるが、出来る事はして頂けるように、支援していくことを説明している。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	声掛けは積極的に行い、利用者様の様子も含め、職員が会話を待つようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に、家族様に具体的に説明し、理解や納得を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居についての説明も、入居前の契約時に、家族様にきちんと説明し、了承と同意を得ている。	/	/	/	
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設前から、施設の説明を地域の方に行っている。	/	△	/	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	コロナ禍のため町内会等への参加は出来ていないが、地域の人への気持ちの良い挨拶は心がけている	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の人に理解を得られるよう心掛けている	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナ禍のため関りがなくなってきた	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナの感染予防に努めているため、立ち寄ってもらう等は出来ていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ禍のため、ボランティアをお願いできていない	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	消防署や月一回散髪に来てもらうなど、協力を得られている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	コロナ禍の際は開催出来なかったが、落ち着いてからは二ヶ月に一度開催している。	○	△	○	コロナ禍において、運営推進会議は書面開催が続いていたものの、直近の2回は、感染対策を講じた上で、集合形式の会議開催を行うことができています。会議では、利用者の入居状況や活動状況などを報告を行い、参加メンバーとの意見交換が行われています。また、会議の参加メンバーや家族に会議録等を送付することもできています。集合形式の会議では、一部の家族も参加して、合同のレクリエーションが行われ、家族には大変喜ばれている。さらに、書面開催においても、参加メンバーや家族に意見を出してもらい、回答を行う工夫も行われていた。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	運営推進会議では状況報告を行い、報告内容や結果、意見、提案を含めた議事録を公表している。	△	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	ご家族様に資料を郵送したり電話連絡し、気軽に参加してもらえよう配慮している	○	○	○	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	事業所理念に基づき、サービス提供(業務)を行っている。	△	△	△	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	利用者様や家族様には伝わっているが、地域の方々には伝わっていないのではないか。	×	△	△	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	代表者は、管理者や職員の力量を把握し、定期的な研修を開催し、参加している。	△	△	△	法人の規模が大きいため、代表者の来訪はないものの、定期的に法人の本部長等の来訪があり、管理者の意見を聞くとともに、職員から出された意見を伝えることもできる。法人・事業所として、職員の自己評価や勤務状況、実績などをともに、人事考課の評価が行われ、働きがいのある職場づくりに取り組んでいる。また、年1回職員のストレスチェックが行われているほか、10月の法人内の人事異動で交代した新たな管理者は、職員の顔色や様子を見ながら、気になる職員に声をかけて意見を聞くとともに、相談に応じている。中には、介護経験のない職員もあり、介護職員初任者研修などを受講してもらったとともに、年2回法人内研修のほか、毎月職員会議の中で、職員が順番に講師役を務める勉強会も実施され、職員のスキルアップにも努めている。さらに、4名の技能実習生が勤務しており、法人として働きやすいように、専用の職員寮も整備されている。加えて、20歳代から70歳代まで幅広い年齢層の職員が動いており、話しやすい良好な関係が築かれ、直近の1年間に離職した職員はいない。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員のスキルアップのため、資格取得の機会を持つよう話をしたり、勉強会を開いている。法人内の研修にも参加している。	△	△	△	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	勤務状況や実績など、定期的に評価し、やりがいのある職場づくりに努めている。	△	△	△	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	法人内での情報共有を行い、一緒に勉強する機会を作るようにしている。	△	△	△	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の話さ、細目に聞くようにしている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	定期的に虐待についての勉強会や話し合いを行い、どのようなことが虐待、不適切ケアなのか理解している	△	△	◎	事業所には、身体拘束適正化委員会が設けられ、定期的に職員間で話し合いを行うとともに、虐待防止などの勉強会が行われ、職員は学んで理解をしている。また、不適切な言動が見られた場合には、職員間で注意し合うとともに、管理者に報告して、該当職員に確認を行い、注意喚起をしている。さらに、急を要する場合には、「ちょっと待って」などの言葉も聞かれるものの、職員が利用者に分かるように理由などを説明を行い、利用者の理解が得られるよう努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	申し送りや日々の現場の中で、話す機会を持っている。	△	△	△	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	勤務状況を確認し、本人の負担の軽減に努めている。	△	△	△	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会を通し、理解している	△	△	△	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	勉強会で身体拘束について学んでいる。	△	△	△	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	◎	家族様から拘束や施設の要望はなく、身体拘束は行っていない。	△	△	△	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	成年後見制度など、色々な仕組みについて、理解できている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	各施設との連携体制は取れている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変や事故発生時についての対応を周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	初期対応について周知している				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	職員会議でヒヤリハットや事故報告書の報告を行い、共有をしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	利用者一人一人のリスクや危険について職員間で話し合い、事故防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情マニュアルを作成、対応方法も検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	今までに苦情はなかった。苦情が寄せられた時は、手順に沿って対応する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	今までに苦情はなかった。苦情があった際は、前向きな話し合いと関係づくりをしていく。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	運営推進会議で意見や要望を伝えられる機会を設けている。	○		○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族からは、来訪時や電話連絡時を活用して、職員から利用者の様子を伝えて、意見や要望を聞くよう努めている。また、家族から「どんなものを食べているかわからない」などの意見が出され、全ての家族に、1か月分の献立表を送付するようになっている。さらに、玄関には御意見箱が設置されているものの、コロナ過で家族の来訪が減少していることから、ほとんど利用されていない状況となっている。加えて、日々の業務の中で、管理者は職員から意見や提案を聞くとともに、出された意見を試行錯誤しながら、利用者のサービスの向上に繋げられるよう努めている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	苦情や相談できる公共機関は、掲示している。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	職員の意見などは、管理者が窓口となり、聞き取りを行っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員への聴き取りや意見の反映などの機会を設けている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	管理者・各ユニットリーダーが職員の意見を聞きながら、評価をしている。				外部評価の自己評価は、職員に意見を聞きながら、管理者やユニットリーダーを中心に、ユニット毎に作成をしている。また、サービスの評価結果は、職員会議の中で報告を行い、職員間で目標達成に向けて取り組んでおり、新たに竹梅だよりの発行や運営推進会議の報告などが行われるようになっている。さらに、運営推進会議を活用して、参加メンバーに評価結果を報告をしている。利用者家族等アンケート結果から、家族にサービス評価の取組みが十分に理解されていないことが窺えるため、今後は、運営推進会議の中で、サービス評価の意義や目的を伝えたり、参加メンバーや家族に取組み状況のモニターの協力を呼びかけて、意見をもらったりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果を踏まえて、取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	△	評価結果は、ご家族へは郵送している。	×	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	資料の内容の確認と意見を聞くことだけになっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	定期的に勉強会を行い、BCPマニュアル作成するなど取り組みを行っている	/	/	/	定期的に防災の勉強会を実施するとともに、法人・事業所として、BCP(事業継続計画)のマニュアルを作成している。年2回、様々な想定をした避難訓練を実施するとともに、竹梅だよりを活用して、訓練の様子を報告している。事業所のある地域は、ハザードマップの対象や大規模地震の発生時の津波被害が想定されるため、避難確保計画等の作成を予定している。災害発生時には、状況に応じて垂直避難の実施を予定しているとともに、食料などの備蓄品を2階に確保している。また、法人内で災害発生時の協力支援体制を整えられ、前年度には、法人全体で災害を想定した訓練を実施することもできている。利用者家族等、地域アンケート結果から、災害への備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、避難訓練の様子の写真を事業所内に掲載したり、家族や運営推進会議の参加メンバーに避難訓練への参加協力を呼びかけたりするなど、家族等への安心安全な取組みが理解してもらえよう、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回避難訓練を行っている	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	避難経路や物品の確認を定期的に行っている	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署や近くの同じ法人内の事業所と連携を図る体制を確保している	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	同じ法人内でのみ訓練を行っている	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	コロナ禍により実施できていない	/	/	/	法人と連携を図りながら、地域住民から入所などの相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。道に迷っている近隣の高齢者に、職員が丁寧に道案内などの対応を行ったこともある。また、事業所では、外国人の技能実習生の受け入れにも協力をしている。さらに、コロナ禍において、市行政や地域包括支援センターが主催する会議や研修に参加する機会は減少しているものの、法人内の他のグループホーム等と協力をしながら、連携を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	近隣に認知症の方がいると道を説明するなど対応している	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ禍により実施できていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	技能実習生の受け入れを行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	コロナ禍により実施できていない	/	/	○	